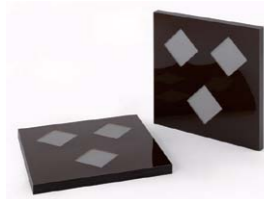


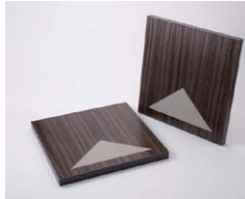


音極振

「KP-05」インシュレーター
¥6,000(4個) Spec ●材質：オーディオ専用シリコン材 ●サイズ：50W×50D×10Hmm



音快速
(おんかいそく)
「KP-01」
ルームチューニング
パネル
¥60,000
(1枚・税別)



音快速極低
(おんかいそくごくいてい)
「KP-02」
ルームチューニングパネル
¥60,000
(1枚・税別)

KOTOBUKI 音快速Mini

「KP-03」ルームチューニングパネル
¥38,000(1枚・税別)

Spec ●材質：表層材/カルム材/高密度グラスウール/アルミ反射材の4層構造(背面はMDF材) ●サイズ：290W×290D×35Hmm

KOTOBUKI 音快速 high zone

「KP-04」ルームチューニングパネル
¥26,500(1枚・税別)

Spec ●効果：スピーカーの上に置くことで高域をきれいに処理し、より空間の広がりやトワイターの補助を実現 ●材質：表層材/カルム材/高密度グラスウール/アルミ反射材の4層構造(背面はMDF材) ●サイズ：140W×140D×35Hmm



■注目のルームチューニングパネル

“音快速”コンパクト 初のインシュレーターも登場

名古屋市に拠点を置く音響・防音設計の専門メーカーであるKOTOBUKIは、画期的な音響処理能力を備えたルームチューニングパネル「音快速(おんかいそく)」を発売。ダイヤのパターンが特徴的で、僅か35mmの薄さとコンパクトでありながら、理想のリスニング空間を実現するアイテムとして、リピーターが絶えない人気アイテムとなった。そして昨年はその第2弾として低音効果に特化した「音快速極低(おんかいそくごくいてい)」が登場させている。そして本年いよいよ第3弾として、「音快速」の小型バージョンを2種類登場させた。さらに同社初のインシュレーターである「音極振」も登場。アクセサリの総合メーカーとして見逃せない存在になっている。早速この最新3モデルに関して、林 正儀氏のレポートをお届けすることにしよう。



Text by 林 正儀
Masanori Hayashi
Photo by 田代法生

画期的な音響パネルに 新シリーズが加わった

画期的な音響パネル「音快速(おんかいそく)」シリーズは、500mm角のサイズを持つスタンダードモデルのKP-01と、低音に特化した「音快速極低(おんかいそくごくいてい)」KP-02の二本立てがラインアップされ、人気を博している。そして今回新たに加わったのが、コンパクトサイズの2モデルと、同社初のインシュレーター/スタビライザーである。

「音快速」の良さを 手軽に楽しめる仕様

順に紹介していこう。「音快速Mini」は素材(新幹線技術応用のカルム材)や基本構造を継承しながら、390mm角へとひとまわりサイズダウン。価格も求めやすくした入門機だ。誕生の背景には、ユーザーのためにもっと手軽に「音快速」のよさを楽しんで欲しいという同社代表の庭瀬さんの思いがある。みずからJBLの4350を愛する、オーディオファンゆえ気持ちがかかるわけだ。従来のダイヤパターンから縦スリット一本に変わり、構造も若干変更。スリットから入った空気を両サイドの仕切り(穴あき)を通して処理するという仕組みだ。吸って吐き出す作用である。

低域のエッジが出て 中高域は輝きを増す

「効果もサイズなりだろう」とナメてはいけない。「音快速」と同等とまではいかないが、びっくりするほどの処理能力だ。ウーファーの前に置いただけで、量感過剰的なこもりや床反射がきれいに消える。低域を処理することによって、ドラムやベースなど低域のエッジは出るし、中高音域は輝きを増した。試しに「音快速」や「極低」の上に積み上げてみると、今度は中域を処理してくれるのだ。均一な処理作用をもつメリットを発揮してヴォーカルはもっとクリアに、定位もピンと決まる。つまり、床に置けば「音快速」的な使い方もでき、スピーカーのウーファーに近づけると低音が処理される。設置を上げて中音が入ればヴォーカルがよく響くという嬉しい変化である。スタンドなどを活用してもよいだろうし、壁掛けもOKだ。

音の色付けが一切なく 素の音を最大限に出す

もうひとつが、高域のディレイ調整だ。吸って返す特性だから、置き場所を前後にずらすことで高域の位相がそろう。まさに「高音域を制するものは中低音域を制す」。そんなトワイター強化型の新アイテムだ。実際にトワイターを付け足すのとは違い、システムの音を利用するのだから、音色の統一とつながりも超スムーズ。「音快速極低」とは逆パターンの効果が、ハッキリと試験によって確認できた。

3つめの「音極振」は、シリコン製で硬さにこだわりオーディオ用に改良を加えた、高性能なインシュレーターだ。もともと本業である音響工事のドラム防音に使うシリコン防振材からきたもの。「音極振」がユニークなのは、コンポの下に敷いて

使いこなしの多様さが楽しめ 未知の可能性を秘めた3モデル

本機はさらに小さい190mm角だ。やはり縦スリットで構造も準ずる。当初は「For PC」とアナウンスされたこともあったが、確かにパソコンやテレビまわりで使うと、目覚ましい効果がある。それ以上に期待されるのが、ミニサイズを生かし、高音域のトワイター専用の特化したような使い方だと思っずばり、高所に設置する「ハイゾーン」モデルだ。見た目はポントワイターみた

「音快速high zone」/「KP-04」 スピーカーの天板にも最適 トワイターの効果を発揮

「効果もサイズなりだろう」とナメてはいけない。「音快速」と同等とまではいかないが、びっくりするほどの処理能力だ。ウーファーの前に置いただけで、量感過剰的なこもりや床反射がきれいに消える。低域を処理することによって、ドラムやベースなど低域のエッジは出るし、中高音域は輝きを増した。試しに「音快速」や「極低」の上に積み上げてみると、今度は中域を処理してくれるのだ。均一な処理作用をもつメリットを発揮してヴォーカルはもっとクリアに、定位もピンと決まる。つまり、床に置けば「音快速」的な使い方もでき、スピーカーのウーファーに近づけると低音が処理される。設置を上げて中音が入ればヴォーカルがよく響くという嬉しい変化である。スタンドなどを活用してもよいだろうし、壁掛けもOKだ。

「音極振」/「KP-05」 音のいいシリコンを厳選 天板に乗せても効果的

もうひとつが、高域のディレイ調整だ。吸って返す特性だから、置き場所を前後にずらすことで高域の位相がそろう。まさに「高音域を制するものは中低音域を制す」。そんなトワイター強化型の新アイテムだ。実際にトワイターを付け足すのとは違い、システムの音を利用するのだから、音色の統一とつながりも超スムーズ。「音快速極低」とは逆パターンの効果が、ハッキリと試験によって確認できた。